

観点別学習評価・校務支援システム 県教委との協議報告

観点別学習評価・校務支援システムについて、本年度から県内全校で本格導入となり、多くの意見が高教組に寄せられています。

昨年度高教組で行ったアンケートをまとめたものと、「子どもたちの主体的で豊かな学びを保障するために 観点別評価の廃止等を求める要請書」を3月に県教委に提出しています。これに対し県教委から10月2日に回答を受け取りました。観点別評価シートについては「学校の判断で、このシートを用いずに、校務支援システムに直接点数を入力することも可能」という回答があるものの、全体として私たちの要求内容に対して不十分なものでした。

11月16日、学校現場で実際に観点別学習評価・校務支援システムを担当している組合員とともに県教委との交渉を行いました。

おもな内容

<観点別学習評価>

【高教組】

- これまでの評価で問題があったわけではない
- 考査問題の作成について、観点ごとにわけるとはむずかしい。
- 保護者はA、B、Cを説明されてもよくわからない。
- 生徒が評価に関心をもてなくなっている。
- 観点別評価シートに入力ミスがあった場合に、どこが間違っていたのか探すのに時間がかかる。重大なミスにつながる。

【県教委】

- 観点ごとに毎時間評価をする必要はない。観点別評価シートの欄は多めに作っている。
- 評価機会は単元の中でバランスよくおいて評価すべき。研修の中で改めて例示していく。
- 観点別評価シートについては意見を聞きながら改善をはかりたい。

<校務支援システム>

【高教組】

- 年度末、年度始めはシステムの切り換えと学検や教科選択も重なり多忙を極める。
- 多種多様な学校があり、統一するのに無理がある。
- 成績会議資料は学校ごとに加工し作成し直している。間違いがあると加工し直しになる。
- 担当者の負担が大きい。
- 不正アクセスの危険性はないか。

【県教委】

- 国の指針でも統一型支援システムの導入がうたわれ、全国的な流れは増えている。
- 各校同じシステムであり担当者の負担軽減につながる。
- 各校で経費を負担していたシステムを県で経費を負担する意味はある。
- セキュリティに対応するため、県で一元管理するように国のガイドラインにもある。
- 各校から出された問題点をQ&Aでうまくまとめたものを出したい。
- 12月15日にシステム担当者の研修会を行う。できるだけ改善するよう進めている。